

## お米の需給と価格の安定を図るため、 主食用米からの更なる作付転換が必要です！

- ・ **2年産米の売れ行き**を示している集荷数量に対する販売比率は、令和3年3月時点で全国で元年産より**低下**しており、東北6県でも元年産より低下しています。
- ・ また、米取引関係者の判断によると、向こう3ヶ月の主食用米の需給動向および米価水準について、先月から引き続き「**緩む**」「**低くなる**」との見方が**非常に強くなっています**。
- ・ お米の需給と価格の安定を図るためには、令和3年産において、全国ベースで約36万ト(▲6.7万ha)の作付転換が必要な状況であり、東北6県でも**需要の高い野菜などの高収益作物や飼料用米などへの更なる作付転換が求められています**。

### ○販売比率

JAや出荷業者が集めたお米のうち、既に販売されたものの割合

### 東北

元年産 (令和2年3月現在)      2年産 (令和3年3月現在)

### 全国

元年産 (令和2年3月現在)      2年産 (令和3年3月現在)

**48%**      **39%**

青森	39%	29%
岩手	36%	27%
宮城	34%	26%
秋田	46%	40%
山形	47%	38%
福島	34%	30%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

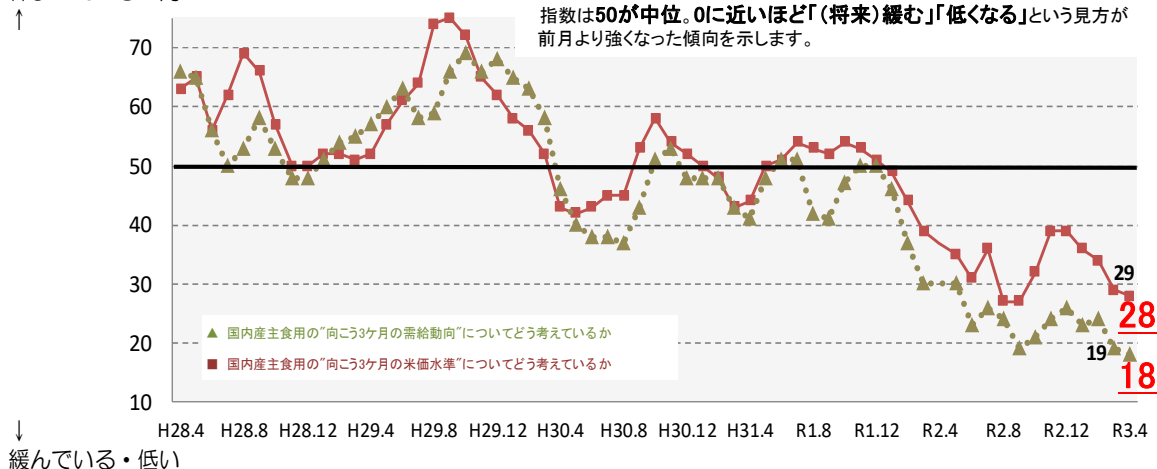
注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000ト以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000ト以上)である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)である。

### ○米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和3年4月分)

↑ 締まっている・高い

注：米取引関係者へのアンケートを行い、回答者の判断や方向性を指数化(DI)したものの指数は50が中位。0に近いほど「(将来)緩む」「低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。



この資料に関するご意見、ご要望等がございましたら、  
ご遠慮なく右記連絡先あてご連絡ください。

ご連絡先：東北農政局 青森県拠点  
 担当：笹木、木村、外崎  
 TEL 017-777-3512  
 メール seitoshi\_sasaki980@maff.go.jp